

THE CITIZENS OF FUKUOKA 2011 CHRISTMAS

2011年 第64回

福岡市民クリスマス



12/2 **金** 福岡市民会館大ホール **入場**

開場/6:00pm 開演/6:30pm (手話通訳有り)

無料

■主催/福岡市民クリスマス実行委員会(事務局)

TEL.092-871-2505

<http://church.ne.jp/fccj/>

■後援/RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、

FBS福岡放送、TVQ九州放送、FM FUKUOKA、

朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、

西日本新聞社、

久山療育園重症児者医療療育センター



Christmas Message

クリスマスメッセージ

■福島第一聖書バプテスト教会

佐藤 彰 牧師

J-Street Concert Live

Jストリートコンサートライブ

■福岡ジョイポップチャペル

松浦 嘉信 牧師 J-Street Mission代表



闇に輝く光

これは悪夢か

3月11日の東日本大震災。その日は奇しくも、私の誕生日でした。地震、津波、それに続く原発事故。穏やかな日常が一変しました。家も地域も教会も喪失し、町で暮らすすべての人が、赤ちゃんからお年寄りに至るまで、一夜にして否応なく故郷を追われることになったのです。ある人は、自衛隊のホロ付きトラックに乗せられ、12時間揺られながら、振り落とされないように必死でいすにしがみつき、こごえる福島の闇の中、毛布も食料も行き渡らない避難所へとたどり着いたのです。

まさか、現代の先進国日本で、そのようなノンストップのサバイバル逃避行に巻き込まれようとは、思ってもいませんでした。その後、教会にふだん通っていた人も、そうでない町の人も一緒にあって、60人余の者たちは行く当てもない放浪の旅へと繰り出したのです。不思議な旅物語の始まりです。

その名も「福島第一」教会

私たちの教会は、福島第一原子力発電所ができるはるか以前に建てられました。第二次世界大戦直後、アメリカから宣教師が来て、キリスト教の布教をしたのです。

当時、その宣教師が所属するアメリカのパプテスト教会の伝統から、「福島第一聖書バプテスト教会」と命名されました。結果的に、福島第一原子力発電所と名前が似たことになりましたが、少し不思議を感じています。現在私たちは、自宅や教会のある故郷にかつてに入ることが許されません。けれどもやがて、あの懐かしい野山に立ち、思い出のしみこんだ故郷を見つめ、教会の扉が開かれる日を夢見しています。

私たちは、原子力発電所のそば近くに建つ教会として、必死の思いで、過酷な状況のもとで原子力発電所で働いている作業員やその家族のために、祈りをささげています。

心は揺れても

ところで、当初突然家を失い、着替えも貯金通帳も持たずに旅に出た私たちは、気がつく、「ありがたい」が口癖になっていました。食事のごとに、「食べるものが与えられて、ありがたい」とか、「着るものが支給され、ありがたく頂きました」とか。人情の機微に触れて、自然と涙腺がゆるみ、幾度も心が震え、涙をながしました。当初、雑魚寝であっても、布団で横になることがありがたく、5日ぶりに温かいものを口にしては、感激しました。

そして、いつしか気がつきました。生きるものに必要なものは、そう多くはないということ。私たちはこれまで多くの人々に助けられていただきましたが、

あまりにそのような機会に会うので、もしかしたら私たちは、被災したたくさんのもを失ったけれど、もっと多くのものを得たのかもしれないと考えようになりました。間違いない私たちは、神の愛に包まれ、人々のぬくもりに支えられて、ここまで来ました。苦しみましたが、数多くの幸せに出会いました。

他方、集団での避難生活は4か月(2011年7月現在)を過ぎ、震災がもたらした過酷な現実と直面しています。時の経過は日に日に重く肩にのしかかり、まるで真綿で首を絞められるような息苦しさを感じています。職場は次々に倒産し、人々は職を失い、疲労はとうの昔に限界を超えています。夫婦や親子も、身を寄せた先の親せきとの関係も、どこか何か以前と違うことを感じています。

「全力でマラソンをしているようなものですよ」とは、ある方の表現ですが、あの震災の渦中、だれも、全力を出さなければぐり抜けることは難しかったでしょう。とはいえ、いつまでも限界点を超えたまま走り続けるわけにはいきません。このままだと、心も体も疲れ果て、壊れてしまいそうです。私たちは、長距離に耐え得るペースのシフトダウンが必要です。

ところで、いったん失ったものを追いかけて始めると、決まって心はうつろになります。鉄状格差ということばがあるのを、初めて知りました。被災時点では同じスタートラインにいたのに、やがて復興景気によって以前より元気になっていく人々と、ひたすら悲しみに暮れる人々との格差が、はきみが開くように、大きくなっていくというのです。もしもそうだとするならば、私たちが気をつけなければなりません。心しないと、ひたすら負のスパイラルにはまっていきそうです。順々と復興が進む他の被災地を見ても、決して諦めないよう、心のコントロールを心がけましょう。

2010年、南米チリで、地下700メートルに人々が閉じ込められた落盤事故が報道されました。世界中が息をのんで見つめる中、見事に全員が救出されましたが、あの時、地下700メートルで年配のオマルさんは日々聖書を開き、希望を捨ててはならないこと、神を信じてこの難局を乗り切るべきことを説きました。

私たちが神を信じ、力を合わせて、何としてもこの難局を乗り越えたいものです。泣きたいときに泣くのがいいそうですから、この際50年分でも一生分でも泣いて、そのあとに立ち上がりましょう。

聖書の神は痛みを知る神

聖書は、神が苦悩する人間をほうっておかず、人々を救うために、ひとり子イエスをこの世界に送られたと教えています。その方は、「悲しみの人で、病を知っていた」とも記しています。次のことばは、その方に関する最も有名な聖書のことばです。

神は、実に、そのひとり子(イエス・キリスト)をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

私はある日、避難所から他の避難所に物資を届けようとした。けれども、突如自分の心が耐えられなくなり、思わず避難所から飛び出してしまいました。その時、自分の心が傷ついていることを知りました。自らがおぼれながら、他のおぼれる人を助けることはできないことを知りました。

神のみが、私たちおぼれる人間を救い、助け出すことができになります。そのひとり子であるイエスを、私たちの世界に送ってくださったほどに私たちが愛しておられる神、イエスは、滅びゆく人間の罪を十字架上で赦し、救い出すために来られたのです。

痛みと悲しみが満ちる闇の世界に飛び込んで来られ、世を照らす光となられたこの方を、今も苦悩する私たちの救い主として、心の中にお迎えようではありませんか。

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう。イエス・キリスト

祈りましょう。

「天の父よ。被災で苦しむ人々と私たちを、どうか助けてください。いつかこの痛みのすべてが、喜びに変わりますように。心の扉を開き、今、イエス・キリストを救い主として、私の心の中にお迎えします。どうか、すべての闇を照らし、私の罪もお赦しください。アーメン(心から)」

牧師プロフィール

■福島第一聖書バプテスト教会 **佐藤 彰** 牧師

1957年3月11日生まれ、福島第一聖書バプテスト教会牧師。

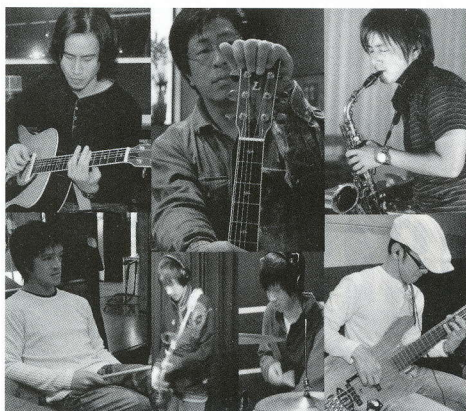
2011年3月11日、東日本大震災に遭い、教会は一時閉鎖。教会員や地域の人たちとともに流浪の旅に出る。教会のホームページには、海外からもアクセスがある。

著書に、『流浪の教会』『苦しみ』から生まれるもの』『順風よし、逆境もまたよし』『あなたに祝福がありますように』などがある。

震災時にオンタイムで書かれた、『流浪の教会』(いのちのこぼれ)は、多くの反響を呼んでいる。ホームページアドレス<f1church.com>

J-street Mission

J-street代表 松浦嘉信氏(ギター&ボーカル)を中心として、西田勇(ギター)西田進(ドラム)原田裕(ベース)の4人のグループとして、2000年よりストリートから活動をはじめ。2001年、1stCD「J-street」を発表後、福岡を中心に教会やライブハウス、コンサートホール、市内ホテルでの演奏活動を精力的に展開。2003年に2ndCD「Eyes on you」を発表。楽曲「聖い風につつまれて」は沖縄CTS社のCMソングとして採用され、また楽曲「からっぽ」は2010年、世界屈指のサクソ奏者ロン・ブラウン氏(スティビー・ワンダー、ダイアナ・ロス、ホイットニー・ヒューストンなどのサポートミュージシャン)によってアレンジされ、サクソ奏者安武玄晃のCD「Break Through」に収録される。更に昨年10月、3rdCD「Acoustic J-street」を発表し活動の幅を広げている。J-streetの「Jazzy&ballade」なサウンドには定評がある。

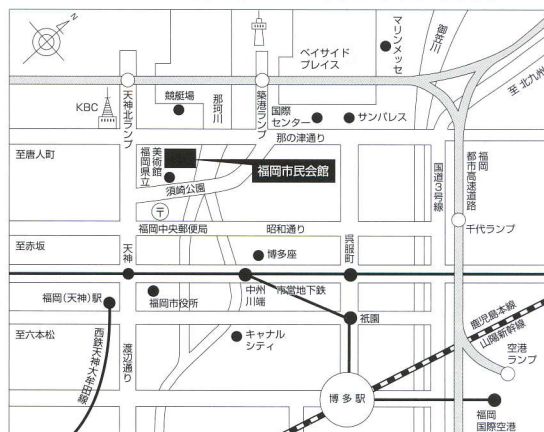


「Jストリート」演奏メンバー

松浦嘉信(Vocal・AG)、西田勇(EG1)、松浦光也(EG2)、西田進(Drums)、原田裕(Bass)、安武玄晃(Sax)、吉村結紀(Keyboard)

〈福岡市民会館のごあんない〉

〒810-0001 福岡市中央区天神5丁目1番23号
TEL.092-761-6567 FAX.092-761-5866



交通
 ■市営地下鉄(天神駅下車徒歩約15分)
 ■西鉄天神大牟田線(福岡天神駅下車徒歩約15分)
 ■西鉄バス(25,46,55,63,151,152,161,209番系統)(市民会館前バス停下車徒歩約3分)